

ドレミファ器楽

フルスコア

SK-94

オッフェンバック

# 「天国と地獄」序曲

山下国俊 編曲

ドイツ生まれの作曲家オッフェンバックは、数多くのオペレッタ(喜歌劇)を作曲したが、その中での最大の傑作がこの「天国と地獄」である。

初演はパリでなされ、その後ウィーン、ロンドンなどにも飛び火して、一躍オペレッタブームをまき起こした。これは後にスッペやヨハン・シュトラウス二世などに大きな影響を与え、さらには、アメリカのミュージカルにまで続くさきがけとなった。

原曲は大きく分けて、4つのテーマから成り立っていて、演奏時間も割と長いが、ここではその中からところどころを抜粋して、全体としてスッキリとまとめた編曲がなされている。

## 〔演奏上の注意〕

まず始めのテーマが大合奏で現れる。ここではとにかく、活気に満ちた演奏を目指すこと。それにはスタッカートを、よく効かせることである。そして鍵盤ハーモニカのカデンツァと、アコーディオンの感傷的なフレーズ(©)を経て、2番目のテーマ(©)に入る。ここではテナー・アコとリコーダーが主旋律を受け持つ。ソプラノとアルトの両アコーディオン、及び鍵盤ハーモニカとピアノのハーモニー群は、極力音量を押さえるように、静かに静かにサポートして欲しい。

突然(©)からの激しい部分を経て、木琴のカデンツァの後、3番目のテーマ(©)が、アコーディオン・セクションを中心に現れる。始めのソプラノ・アコは、アルト・アコの主旋律の邪魔にならないように注意すること。途中からまた、ソプラノ・アコに主旋律が移るが、いずれもよく歌いこむことが大事である。

そしていよいよ最後のテーマに突入する。ここはギャロップのリズムを根底に置いた、いわゆる「フレンチ・カンカン」と呼ばれる有名な部分。ここからのポイントはやはりリズム。とにかく全ての楽器は、リズム感覚をしっかりと把握して、最後まで一条乱れぬ演奏をすること。

この曲の演奏にはティンパニーが重要な楽器。この楽器の有無が曲の仕上がりに、大きな差をもたらすことは、どうしても否めないところである。

オッフエンバック

# 「天国と地獄」序曲

山下国俊 編曲

*Allegro con fuoco*

フルート  
(無くても)  
演奏可能



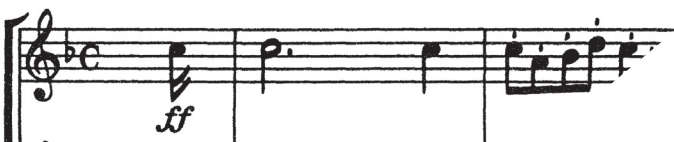
ソプラノ  
リコーダー



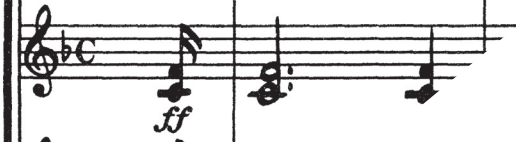
鍵盤  
ハーモニカ



ソプラノ  
アコーディオン




アルト  
アコーディオン



テナー  
アコーディオン  
(オクターブ  
上に記譜)



バス  
アコーディオン



木



ピアノ



オッフエンバック  
「天国と地獄」序曲

鍵盤ハーモニカ

山下国俊

*Allegro con fuoco*

*ff*

*tr*

*p*

© *Allegretto*

*Lento*

*pp*

ⓓ (2回目だけ演奏すること)

*pp*